

## 1 沿革

本校は、浜松市中央区にある学校で、今年度116周年を迎えました。

明治42年5月に、濱名郡積志尋常高等小学校として設立されました。昭和22年4月1日に、濱名郡積志村立積志小学校と改称、昭和32年10月1日に、浜松市立積志小学校と改称され現在に至ります。

校章は、明治41年1月1日積志村の誕生に当たり、村の紋章として内野出身の小栗氏が考案したものです。地域の花の「水仙」と「志」の字を三つ組み合わせて「志を積む」（せきし）の意味を表しています。明治42年5月、積志小学校の創立時に校章と決め、今に受け継がれています。

通級指導教室（言語）「れもん」は、平成18年に開設されました。



## 2 通級指導教室（言語）の紹介（R7.6.4現在）

### 通級指導教室（言語）「れもん」

1教室あります。現在、14名（自校6名、他校8名）の児童の相談・指導に当たっています。学年は、1年生6名、2年生5名、3年生2名、4年生1名です。障害種別は、発音78.6%、吃音14.3%、ことばの遅れ7.1%です。



指導室



観察室



プレイルーム

### 3 教材の紹介

#### 口の体操

発音の誤りがある子に、毎行っているのが口の体操です。反復練習を行い、口や舌がしっかり動くようにトレーニングをしています。

あいうえお体操やあぐあぐ体操、ういうい体操、舌の体操、舌の力を抜くあっかんべー、むすんでひらいての曲に合わせた口の体操、母音口形練習、口形を意識しつつ50音練習、舌をいっぱい動かしてなめらかな舌の動きの練習、両唇音→歯茎音→軟口蓋音の繰り返し、舌の動きの練習、ふんわりべろなどを行っています。

すごろくを使って口の体操をすることもあります。



口の体操カード

#### 発音練習

誤りのある音を聞き取る練習を、紙コップ2つと作り物の宝石を使って行っています。担当者が正しい音を言った場合は右のコップ、違う音を言った場合は左のコップに宝石を入れるクイズを行い、聞き取れているか確認をしています。

他に、発音練習でよく活用しているのが、語頭、語尾、語中のカードと「構音訓練のためのドリルブック」です。

発音の誤りのある音がことばのはじめについている語頭のカード、ことばの終わりについている語尾のカード、ことばの中についている語中のカードを使って、ことばを言う練習をします。「構音訓練のためのドリルブック」にも語頭、語尾、語中のことばが載っているので、それを読んで練習することもあります。

語頭、語尾、語中の順番に行い、合格すると、「構音訓練のためのドリルブック」に載っている短文を練習します。さいころを振って、読む短文を選んでいきます。

語頭・語尾・語中カード



「構音訓練のためのドリルブック」

#### ことばの習得

ことばの遅れがある子によく活用しているのが、くもんの図鑑カードです。動物カードや生活道具カード、花と木カード、鳥カード、こん虫カードなど、いろいろな種類のカードがあります。

絵を見ながら名前を覚えたり、知識を増やしたりしています。クイズ形式で楽しみながら取り組んでいます。

文作りやジェスチャーも行っています。



くもんの図鑑カード